

61 弥生人と現代人の歯及び顔の特徴に関する比較検討

門前 弘美¹⁾, 山河 勝彦²⁾, 三宅 茂樹³⁾, 杉山 勝⁴⁾

¹⁾ 門前歯科医院, ²⁾ 山河歯科医院, ³⁾ 愛児歯科医院, ⁴⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究院

1万数千年前から中国大陸や東南アジアからやってきた人々が定着した縄文人と、その後約2,000年前に新たに大陸から渡来してきた弥生人により、日本人の祖先が形作られたものとされている。人骨は縄文遺跡からはほとんど発掘されなかったが、近年石垣島や富山などでも発見されたことから、DNAの特徴により日本人のルーツに関することが明らかになりつつある。

弥生人の骨は西日本で多く出土しており、「西北九州」・「南九州・南西諸島」・「北部九州・山口」の3タイプに分類されている。山口県下関市にある土井ヶ浜遺跡は、「北部九州・山口」タイプの代表的なもので、大陸からの渡来人が約2000年前からこの付近に居住していたことから、弥生人の人骨が多く発見されている。

今回、下関市教育委員会及び土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムのご厚意で、貴重な弥生人頭骨標本を観察し撮影する機会を得ることができたので、歯・歯列の特徴について検討した。

1. 対象

歯が顎骨から分離している標本や、骨片だけのもの、あるいは歯が単独で残っている標本等もあったので、歯が顎骨に付着している上顎は5体、下顎は8体を対象に観察した。

2. 形態的所見

(1) 歯、歯列弓について

歯については、縄文人の形質である Sundadont と、弥生人形質である Sinodont が混血して形成されたものとして、顔の構成要素とともに従来から検討されてきている。

土井ヶ浜遺跡の人骨の全てで、上顎中切歯口蓋面がシャベル状、上顎歯列弓が放物線型であることが観察され、Sinodontである弥生形質が確認された。

(2) 歯の欠損について

上顎では5体中4体（左右側切歯：3例、左右犬歯：1例）、下顎では8体中1体（左右側切歯）に歯の欠損が見られた。

歯の欠損が左右対称的にあり、欠損部の歯槽骨が閉鎖していることから、風習的抜歯がなされたものと推測された。

3. 検討

風習的抜歯は、アフリカ・東アジア・オセアニア・アメリカなど全世界的に行われていた。日本では旧石器時代や古墳時代にも見られているが、縄文末期に非常に広範に実施されていたもので、弥生時代にあまり実施されなくなったと言われている。風習的抜歯が、渡来系の弥生人である土井ヶ浜人骨に見られることは興味あることであり、その特徴を検討した。

歯科的見地から、抜歯の方法について一層の関心をもつものであり、麻酔が開発されていない時代の非近代的な抜歯の方法についても、文献を検索して整理した。

また、現代日本人は、縄文形質と弥生形質が混ざり合って歯・歯列及び顔の特徴が形成されていると言われており、歯の形質や顔面形態についても大いに関心のあるところである。

そこで、広島市に在住する成年を対象にして、上顎中切歯の口蓋面形態、顎歯列弓の形態を観察するとともに、顔面の形態についても観察して、従来弥生人として特徴づけられている形質と現代人の特徴について比較検討した。